

会員の広場



事務局長就任にあたってのご挨拶

全日本大学開放推進機構
事務局長 橋本 仁子

近年、少子高齢化、団塊世代の退職者、18歳人口の激減、大学全入時代等、大学を取り巻く環境は大変厳しく、社会変化が厳しさを増しています。

21世紀初頭大学にもっとも期待されていたのは、大学に社会人を取り込む大学開放であった。このような社会的背景に迫られ設立されたのが、全日本大学開放推進機構であると言っても過言ではないと思います。

全日本大学開放推進機構は2003年（平成15年）2月に設立され今年9年目を迎えました。

私は、本機構の設立直後から、在職中は法人会員（大東文化大学地域連携センター、旧エクステンションセンター）として参加してまいりました。本機構が主催する各種の事業、「大学開放フォーラム」、「教職員研修セミナー」、「研究セミナー」、「法人懇談会」等において、本機構では、常に新しいことに取り組んでいる各大学の先進事例発表等を始め、旬の話題を取り上げた研修会で勉強させていただいたり、多くの講師の先生方との情報交換ができたことは、公開講座担当者にとっては即戦力になる実践的なセミナーであったと実感しています。

本機構において皆様に勉強させていただき、育てていただいたことを感謝しています。特に、大学、短期大学、自治体、団体、企業等における生涯学習担当者にとって、今でも大きな力となり役立っています。

在職中、自大学の講座企画のための資料を収集したり、本機構で学んだことをまとめていましたが、なかなか1冊の論文にまとめきれませんでした。

そこで、桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻へ入学してみようと思いました。修士論文は「大学公開講座の効果的な望ましい運営についての研究」にしました。修士論文を書くということは、今までの資料ではもの足りませんでした。また、日本では大学開放の先行研究をされている方が非常に少なく資料収集は大変な作業でした。そのような時、本機構の理事長の香川先生の研究室には沢山の資料があることを知りました。そこで香川先生にお願いし、資料をお借りしようとお話ししましたところ、香川先生から、「あなたのために資料を用意

しておきましたよ。ここからここまでもっていくように」と、ありがたいお言葉でした。大学の図書館や国会図書館、書店などにもない貴重な資料ばかりでした。早速、段ボール2箱も資料をお借りしました。もし、あの資料がなかったら論文は出来上がっていなかったかもしれません。その後も、引き続き本機構で勉強させていただき、修士論文を書き上げ、終了後間もなく1冊の著書にすることができました。本機構や香川先生とのご縁は修士論文がきっかけでした。

本機構とのかかわりはその後も続き、大東文化大学を退職後も桜美林大学での修士論文の指導教授が瀬沼先生だったというご縁や、本機構の理事長が瀬沼先生になられたこともあり、本機構の事務局を手伝うことになりました。

そのようなことから、私は2008年(平成20年)に事務局長になりました。その後昨年10月香川先生が理事長に就任(復帰)され、本機構の設立当初から事務局を運営してきたベテランの手塚さんが事務局長に復帰され、私は事務局次長となり少し肩の荷が軽くなりました。しかし、この度手塚さんが体調不良ということで退任され、再び事務局長に就任することになりました。

さて、11月1日付で本機構理事長より事務局長を拝命いたしました。私は、本機構の事務局長就任にあたり、過去に法人会員の一人として様々な経験したことを生かし、本機構の事業運営に役立てたいと考えています。大学、短期大学、自治体、団体、企業等で生涯学習の教育、研究及び運営に関わっている方、また、本機構の趣旨に賛同される方、できるだけ多くの方々に会員として参加していただき、ともに活動されることを期待しています。

手塚さんの後任としては微力ではありますが、本機構の発展のために一層努力を尽くして参りますとともに、前任者同様変わらぬ温かいご支援・ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

以上

橋本 仁子 (はしもと じんこ)

1947年 長野県生まれ。大東文化大学文学部日本文学科卒業。桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻、国際学修士。修士論文「大学公開講座の効果的な望ましい運営についての研究」。学校法人大東文化学園就職(教務部、学務課、図書館、広報課、国際部、体育センター、地域連携(旧エクステンション)センター、学園総合情報センター他)。大学公開講座研究会幹事(2004年～2008年)。板橋区生涯学習推進懇談会委員(2005年～2007年)など歴任。著書『大学公開講座の効果的運営方法』、自費出版、2006年。愚公窯主宰(陶芸)。全日本大学開放推進機構事務局長。